

その2 実践編

「これだけはおさえておきたい」作法を紹介します。まずはベテランの所作を真似ることからはじめましょう。

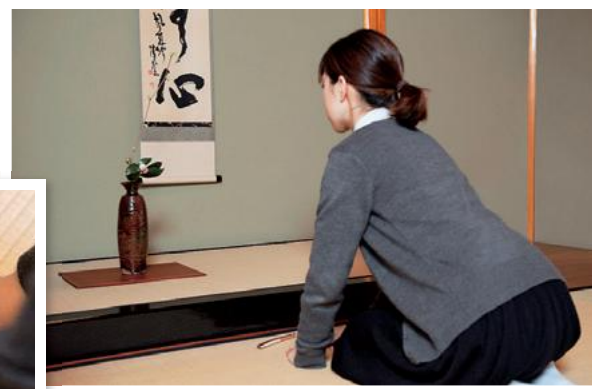
席入・退室

床にある掛物や花入を拝見

茶室に入ることを「席入」といいます。席入したら、まずは床にある掛物(掛軸)と花と花入を拝見します。拝見前は扇子を膝前に置いて一礼しましょう。また、敷居や畳のへりを踏まないように注意しながら、静かに歩くよう心がけてください。退室時も同様です。



①床と手の間に扇子を置きます

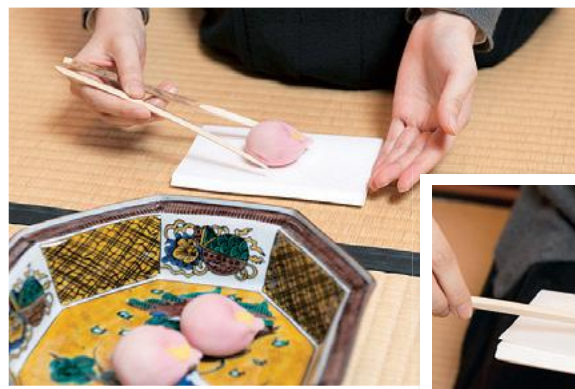


②手はついたまま、掛物、花入の順に拝見します

お菓子のいただき方

主菓子には懐紙と楊枝を使う

茶会では、菓子器に盛られたお菓子を順番に受け取っていきます。その際は、自分の次に待つ客に対して「お先に」と一礼してから懐紙を取り出して膝前に置き、主菓子は箸を使って(干菓子は手で)取ります。食べる時は懐紙ごと持ち上げ、主菓子は楊枝を使って一口ずつ(干菓子は手で)いただきます。一人一皿ずつ出てくるお菓子は、そのまま一礼して受け取りましょう。



①箸を使って菓子器から懐紙の上に移します



②楊枝で食べやすい大きさに切ってからいただきます

お茶のいただき方

茶碗の正面を外して飲む

茶碗が自分の前に置かれたら一礼します。まず、上座の人との間に茶碗を置き「お相伴させていただきます」、次に下座の人との間に茶碗を置き「お先に頂戴いたします」、その後茶碗を自分の前に戻し、亭主に「お点前を頂戴いたします」とあいさつをします。右手で茶碗を左手に乗せ、茶碗を回して正面を外して数口で飲み切り、飲み口を指で拭きます。最後に、正面に戻して自分の前に置き、両手をついて茶碗を拝見します。



③茶碗を回して正面を外してからいただきます



②亭主にあいさつをします。茶碗は自分の正面に



①まずは両隣の人にきちんとあいさつをしましょう

茶の湯関連スポット

茶の湯が盛んな石川県には茶室はもちろん、関連の美術館、スポットがたくさんあります。「茶の湯をもっと知りたい」「時間がなくて茶会に行けなかった」という人はぜひ。
※掲載のデータは2018年3月1日現在のものです。料金は変更になる場合がありますので、おでかけ前にご確認ください。※茶会開催時は見学できません。

石川県の茶道の歴史

茶の湯文化が盛んだった加賀藩

藩政期、加賀藩は文化振興に力を入れ、茶道も藩士から町民にまで広がりを見せました。初代藩主・前田利家(としか)は千利休から直接茶道を学び、3代藩主・前田利常(としつね)は各流派ゆかりの茶人を金沢に呼び、藩内での茶の湯文化を盛んにしました。それとともに、茶碗や釜といった茶道具、お菓子や料理、生花など、美術・工芸の分野も発展していったのです。加賀藩の財政的な豊かさや茶道に対する裾野の広さ、懐の深さが今日の県内における茶の湯隆盛の礎になっているといえるでしょう。



かいこかん 懐古館
七尾城史資料館に隣接する江戸時代の加賀藩煎煎役(きもいりやく)の屋敷で、かやぶき屋根が特徴です。「日本一小さい茶室」とされる旧樋爪家の茶室があります。
☎0767-53-6674
☎0767-53-8437(七尾市文化課。冬期はこしらへ)
☎七尾市古屋敷町夕暮8-6 ☎9時~16時30分
☎月曜(祝日の場合は翌日)、祝日の翌日、12月11日~3月10日(冬期休館)
☎入館200円 ☎10台

せんそう やしき 仙叟屋敷ならびに玄庵
芦城(ろじょう)公園内にある、12畳半の茶室(仙叟屋敷)と小間の茶室(玄庵)。仙叟宗室居士没後300年を記念し、平成9年(1997)、裏千家により寄贈されました。
☎0761-24-1656
☎小松市丸の内公園町19 ☎庭園は土・日曜の10~15時見学可(4~11月のみ。茶会開催時は見学不可)茶室内の見学は要予約 ☎見学無料 ☎200台

げんしんじ 月心寺
慶安3年(1650)創建の曹洞宗の寺院。千仙叟宗室の墓があり、毎月命日の23日に月釜が行われます。「直心庵」「晩雲亭」「指月軒」の茶室があります(見学不可)。
☎076-251-0492
☎金沢市山の上町1-43 ☎拝観は要予約 ☎毎月22・23日 ☎あり

ちやうりゆうてい 長流亭
宝永6年(1709)、大聖寺藩3代藩主・前田利直(としなお)により建てられた茶室。小堀遠州の設計といわれ、華やかな飾り棚など独特の意匠が凝らされています。
☎0761-72-0551
☎加賀市大聖寺八間道55 ☎9~15時
☎3年年末年始及び祭礼時(4月29日、9月25日他)
☎入館400円 ☎10台

むげんあん 無限庵
明治末期に建てられた加賀藩家老武家書院。館内には2畳台目茶室「雄峯庵」、庭園には東京美術倶楽部より移築した「静清庵」があります。
☎0761-78-0160
☎加賀市山中温泉下谷町口6 ☎8時30分~18時(入館は~17時) ☎3年年末年始 ☎入館500円(抹茶300円) ☎40台

かなざわじやうこうえん きよくせんあん 金沢城公園 玉泉庵
江戸後期の姿を再現した玉泉院丸庭園を一望しながら抹茶と生菓子をいただくことができます。
☎076-221-5008
☎金沢市丸の内地区 ☎9~12時、13時~16時30分(受付は~16時) ☎3年年末年始 ☎抹茶720円(オリジナル生菓子付き) ☎いのき迎賓館地下駐車場

にしだ けてい えん・ぎよくせん えん 西田家庭園・玉泉園
兼六園より120年古い庭園。裏千家仙叟宗室指導の金沢最古の茶室瀟雪亭(さいせつてい)も現存するほか、キリシタン灯籠や名石を配した飛石、蹲踞(つくばい)など、多くの見どころがあります。本庭は玉潤(ぎょくかん)様式で造られ、県指定名勝になっています。
☎076-221-0181
☎金沢市小將町8-3 ☎9~17時(12~2月は~16時) ☎無休(荒天による臨時休園あり) ☎入園700円、抹茶800円~ ☎なし

おおひびつつかん/じやうちいひおひちやうえんもんがほ 大樋美術館/十一代大樋長左衛門窯
約350年の歴史を有する大樋焼の歴代作品と茶道文化にふれる美術館。隈研吾氏の設計による大樋ギャラリーは、大樋陶治翁と当主十一代長左衛門の作品販売もしています。
☎076-221-2397
☎金沢市橋場町2-17 ☎9~17時 ☎無休(展示替え期間中は休館) ☎入館700円 ☎3台

しょうとうあん 松涛庵
江戸末期に加賀藩12代藩主・前田齊泰(なりやす)が隠居所の居間として建築。江戸末期の風情を今に伝える貴重な建物です。椅子点前による立礼席もあります。
☎076-220-2800
☎金沢市広坂1-2-1(金沢21世紀美術館敷地内) ☎9~17時(茶会開催時は見学不可) ☎3月曜(祝日の場合は翌日)、年末年始 ☎見学無料 ☎322台

せんのおんそうしつ こじてい ちあと 千仙叟宗室居士邸地跡
千仙叟宗室は、千利休のひ孫で、裏千家の4代目です。その邸地跡の一部は現在、裏千家稽古場「好古庵」になっています。
☎076-261-3602(好古庵)
☎金沢市大手町9-5 ☎外観のみ見学可 ☎なし

かなざわ しりつなかむらぎねん ひびつつかん 金沢市立中村記念美術館
茶道具と金沢ゆかりの工芸作品を鑑賞できる美術館として知られています。貸施設として、「旧中村邸」や茶室「耕雲庵」などがあり、多くの人に親しまれています。
☎076-221-0751
☎金沢市本多町3-2-29 ☎9時30分~17時 ☎3年年末年始、展示替期間 ☎入館300円(茶葉券300円) ☎12台

けんろくえん しぐれいてい 兼六園 時雨亭
加賀藩5代藩主・前田綱紀(つなりのり)が建てた蓮池御亭(れんちおん)がルーツ。庭側の10畳と8畳に続いて1畳台目の「御田(おかい)」と呼ばれる小さな茶室があります。
☎076-232-8841
☎金沢市兼六町1-5(兼六園内) ☎9~12時、13時~16時30分(受付は~16時) ☎3年年末年始 ☎抹茶720円(オリジナル生菓子付き)、煎茶310円(干菓子付き)※兼六園入園料別途 ☎県営兼六駐車場利用

